

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2007 年 4 月 第 10 号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

URL <http://omiya.church.jp>

Email omiya@church.jp

もう一人、天へ

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

シオン通信をお読みくださる皆さま、神さまの支えと見守りの中でお過ごしのことと信じます。

先ず、教会の近況報告です。3月13日(火)、わたしたち教会の古い仲間である東野泰子さん
が御許へ召されました。突然のことでご家族の皆さんと教会の仲間たちは途方にくれるような思
いでした。通夜記念式や葬送式を合わせて6百人を超える方々が泰子さんの最後を見送り、とも
に神さまの慰めのみ言葉に与ることができたこと。これは、泰子さんが自分の死を通して人生の最
後に神さまを証しする場を設けた、大切なときでした。ご家族をはじめ、泰子さんの死を悲しむ
一人ひとりが、泰子さんが証ししてくださった神さまの慰めの下にあることと信じます。

また、3月よりLWF(世界ルーテル連盟)に加わる日本福音ルーテル教会と日本ルーテル教団が
HIV・AIDS(エイズ)プロジェクトに関わることになりました。日本のルーテル教会での初企画で
すが、熊本や関東のルーテル教会のミッションスクールをターゲットにして、具体的に取り組む
ことにしています。日本ルーテル教団では私と竹の塚教会の北沢肯さんが関わることになりまし
た。今日本では15~24歳の年齢層の感染者が増えつつあると報告を聞いています。これは単に
社会的問題に限ることにするのは無責任なことと思います。エイズについて、一部偏見があり、
そこから差別に繋がっていくようになりました。このような偏見と差別から、成長期にある青少
年たちが性に対して正しい知識をもって、自分の性に責任を持って生きることのできる、そのよ
うな性教育の中でHIV・AIDSのことも知る機会が与えられますように祈っています。このことの
ために、わたし自身小さな力ではありますが、何かお手伝いできればと思います。このコーナー
においても皆様のご協力と呼びかけたり、また、いろいろと紹介させていただきたいと思いま
す。

【ワンポイント豆知識】「HIV/AIDS」

HIV(Human Immunodeficiency Virus) ヒト免疫不全ウイルス。免疫の仕組みの中心で
あるヘルパーT リンパ球(CD4)という白血球などに感染し、身体を病気から守っている免疫
力を破壊していく。しかし、HIVに感染してもすぐエイズを発症するわけではない。HIVに
感染して6~8週間経過して、血液の中にHIV抗体が検出される。その後、自覚症状のない
時期(無症候期)が数年から10年以上続き、さらに進行すると病気と闘う抵抗力(免疫)が低下
し、日和見感染症を発症するようになる。日和見感染症を発症は抵抗力が落ちることで発症
する23の指標となる疾患。これらが発症した時点でエイズ発症と診断される。現在は様々
な予防薬が出ていて、きちんと服薬することでエイズ発症を予防することが可能になった。

聖書のみことば

ルカによる福音書 18章 31-43節

イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。人の子は異邦人に引き渡されて、侮辱され、乱暴な仕打ちを受け、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」十二人はこれらのことが何も分からなかった。彼らにはこの言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしたいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

説 教

『何をして欲しいのか』

エルサレム。ここはイエスさまが死刑の宣告を受けて十字架刑とされる場所。今日、イエスさまは、「エルサレムへ上ろう。私たちは、今からエルサレムへ上っていくのだ」と、弟子たちを誘っています。「エルサレムへ上ろう」。この誘いの言葉は、

弟子たちに、「心をしっかり保つように」といった意味が込められた言葉です。「わたしたちは、エルサレムへ上って行く」。つまり、この言葉は、「あなたたちはわたしと一緒に苦しみを覚悟は出来たのか?」といった語りかけです。ただ都観光と一緒に

行くのではない。イエスさまをエルサレムまで見送るために、そのために一緒に行くのでもないのです。イエスさまが受けられる杯を、弟子たち飲む覚悟で従っていくところがエルサレムなのです。

しかし、弟子たちにはこの言葉の意味がわかりませんでした。もちろん、イエスさまと一緒にエルサレムへ上っていくことまではわかっています。しかし、弟子たちにとってエルサレムは、苦しみの杯を飲む場所ではないのです。この世の権力を握る場所。イエスさまがこの世の権力を握られた時に、自分たちは右に座るか左に座るかなになる、そんな場所が弟子たちの取つてのエルサレムなのです。

そんな彼らに向かって今日三度目の受難予告が語られました。「人の子は異邦人に引き渡されて、侮辱され、乱暴な仕打ちを受け、つばをかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」

これは、もう最期の予告でした。一度、二度、三度…何度言ったら弟子たちはわかってくれるでしょうか。「弟子たちには、この言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかった」と聖書は記します。つまり、弟子たちにはわからない、その理由は理解できる目が開かれていないからということです。実際の肉眼ではなく、言葉の意味を悟る目が開かれていないということです。肉眼の両目があつて物の動きや色の分別がはっきり出来ているとしても、しかし、聖書は、語ろうとし

ている言葉の意味をとらえられないとき、隠されている、見えなくされていると表現しています。肉眼の目が見えても見えないということです。

人間は、子どもの時には左か右か、どちらかが見えるそうです。そして、少し成長して青年になりますと両方に見えるようになり、それから成熟した大人になりますと全体が見えるようになるそうです。もちろん、これも肉眼の目のことを言っている言葉ではありません。しかし、これは、人によって差があるもので、死ぬまですべてを見る目が開かない人もいることでしょう。きっと、わたしもその中の一人だろうと思いながら、ですから聖霊の助けを求めらる中で今日の福音書を黙想していました。

今日の福音書は、二つの部分に分かれています。先ほど申しましたように、前の方の 31－34 節はイエスさまの三度目の受難予告です。そして、35 節からは、目の見えない人の物語です。この二つの物語の面白いところは、まったく異なる物語なのに、ですから偶然、イエスさまがエルサレムへ上っておられる際にたまたま通りかかった人の物語とも考えられるでしょうが、しかし、深い関係があるのです。きっと、福音書記者たちはこのことを意識してここにこの二つの物語を並べているのでしょう。マタイもマルコも皆同じ試みを見ているのですが、マルコにははっきりと目の見えない人の名前が記されています。バルティマイという人です。

バルティマイ。彼は、乞食でした。道端で物乞いをして生きる人です。この日もいつもと同じように道端で物乞いをしていました。その彼の前をイエスさまご一行がエルサレムへ登るために通っていきます。大勢の群集も一緒です。彼は、いつもと違う周りの様子を感じ取り、いったい何が起きたのかと聞きました。すると、「ナザレのイエスが通られている」と、誰かが教えてくれました。きっと、彼は、どこかでナザレのイエスのうわさを聞いていたのでしょう。「ナザレのイエスのお通りだ」ときくや否や、「ダビデの子、イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫び始めます。彼は、ナザレのイエスのことを「ダビデの子イエス」と呼んでいます。「ダビデの子」と呼ばれることの意味は、イスラエルの中ではダビデの子孫からメシアが生まれると預言されていますから、彼は、イエスをメシアとして信じているということです。ですから、この物乞いバルティマイは、むしろ、弟子たちよりイエスさまのことを理解していると考えられます。一緒にいたこともないのに、イエスさまが解かれる神さまの話を直接聞いたこともないのに、イエスさまが行なう奇跡の出来事など見たこともないのに、もちろん、何度も言われた受難予告なども聞いたこともないのです。なのに、彼は、イエスがメシアである、イエスが自分を、人々を罪から救ってくださるメシアであると理解していた、そう確信していたのです。「ダビデの子、イエスよ、わたしを憐れんでください。」

彼は、目が見えない人でした。ですから、他の職業に付くことが出来ず、道端で物乞いをして生活を営むしかありません。目が見えないがために、目が見える人たちから偏見視され、社会から隅っこへ追いやられ、ですから、生活の面だけを営むために物乞いをしているのではなく、彼の人生だって、見える人たちから物乞いして生きるしかない、まるで捨てられたゴミ屑のように生きることを強いられた人生であった。そんな彼に、一つだけ見えたこと、わかったことがありました。「ナザレのイエス」は「ダビデの子」であるということ。つまり、「イエスはメシアである」と言うことです。誰かから親切に教えてもらって、それで納得できたものではありません。彼にとっては、そう信じなければ生きられなかったからです。そう信じることによって自分が自分として、自分らしく生きられることだったからです。

見える、ということは、便利なことです。私たちは、生まれるときから見えるということが当たり前で、見える者として育てられました。見えるがために物事の判断のすぐ付きます。○や□の形もわかりますし、人の表情を見て判断できるのです。

しかし、見えるということは、とても不便なことでもあります。知らないうちに自分の中に相手対するバリアを貼り付けてしまう場合が多いからです。見えて、判断できるから、関わる相手によって差をつけ、物を見比べ差をつけ、自分自身で価値判断を決められるということは、ある意味自由

にも思えますが、しかし、これは自分にとって不便な歩みを作り上げているのです。

ですから、弟子たちにとってイエスさまの存在はどこまでも政治的なメシアでしかありませんでした。見えるから、イエスさまの行っている奇跡や病の癒しなど見えるから、この世でいちばん力のある人として立っていただきたいと、希望をそこへかけていくのでした。見えて判断できるということは、それだけ物事をひっくり返して考えてしまう、そんな危険性があるのです。つまり、本当に見るべきことは見ずに、いらないもの、空しいものに目に留めて、その中で悩みを増やしてしまうのです。ですから、何度受難予告を聞いても、何度死と復活の話聞いても、その話よりも自分が肉眼で見て判断したことだけが自分を支配してしまうのです。つまり、人々の病を癒し、天の国を話を説いて大勢の人々を従わせる力を持っているイエスは、この世で権力を持った支配者になる方としてしか考えたくなくなるのです。そして、大切なことは、イエスさまに向かい合う自分自身の姿が見えていないということです。自分にとって今何より必要とされているものがわからないからです。

肉眼ではなく心の目が、本当に見るべきものを直視しているとき、わたしたちは、自分にとって最も必要なものが何であるかわかるのでしょうか。自分が欲しいものではなく、自分に今なくてはならないもの、

それが何であるかが見えるのです。

「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫び続けるバルティマイの声を聞いて、主は彼に聞きました。「何をして欲しいのか」と。そのとき、彼は躊躇することなく答えます。「主よ、目が見えるようになりたいです」。

そう、彼にとってたった一つ、なくてはならないもの、最も必要なものは目が見えるようになることでした。彼にとって目が見えるということは、物がちゃんと見えて便利になるという意味ばかりではなく、彼の人生が、彼の人格があるべき存在へと取り戻されるという意味になります。見える者たちに当たり前であった、尊い者とされるのです。社会から虐げられて、余儀なく差別を受けていた彼のいのちが、本来の姿を取り戻される、大きな出来事なのです。それを、彼は主の前に求めたのでした。もっとも必要なもの、あつて当たり前のもの、自分が生きるためになくてはならないもの、それを求めたのでした。

皆さんは、自分の人生にとってもっとも必要な物がありますか。今、イエスさまがここにおられ、皆さんに、「何をして欲しいのか」と聞かれたら、皆さんはイエスさまに何を求めますか。自分が欲しいものではなく、なくてはならないものを求められるのでしょうか。

今の時代は物が反乱して、物の大切さも失われつつあります。欲しいものも大体

は手に入ります。このような環境の中で、わたしたちは、いつの間にか物で心を満たすことに慣れてきました。そして、自分自身のことだけではなく、他者との関係も、物で持って関係をとろうとしてしまったりもするのです。物は人の目を見えなくします。物は、ものを使う人から本物と偽物を区別する力を奪っていきます。結局、物によって生きようとするとき、私たちは、自分にとって何が必要なのかもわからなくなってしまうのです。

物で育てられる今の若い世代からも感じるのですが、寂しいけれど、心が満たされていないけれど、どうしてそうなのかわからない。なぜ寂しいのか、その原因がわからないというのです。

この中の一人がわたしであること。わたしたちであること。

このような私たちを、今日、イエスマは誘っておられます。「エルサレムへ一緒に行こう」と。わたしたちのエルサレム、そこは、自分が自分として、自分らしくいられる場所。苦しみの中ではあるけれど、それを乗り越えた向こうに見えるもの、それがわたしたちにとってなくてはならないものなのです。主はそれをわたしたちに

備えさせ、見せて、それにこそ生きることを願うがために誘っておられるのです。死がすべての最期ではない、苦しみの死を越えてこそ達することのできる復活のいのち、永遠のいのち、それに生きる者であるように、わたしたちは復活の主に誘われているのです。この方と一緒にエルサレムに上ってこそ、私たちは復活の喜びの味わうことが出来るのです。さあ、主とともに、上ろうではありませんか。主の十字架と復活の証人として立たされるエルサレムへ。

祈ります。

主が苦しみを受けられるエルサレムへ上られる際に、三度も主の十字架の死と復活の予告を聞かされてもわからなかった弟子たちを誘っておられるように、今、私たちをも誘っておられる主の声を聞きました。心の目が開かれ、主が私たちを誘い、それを通して語ろうとしておられることを聞き取ることで出来る者として、わたしたちを導いてください。そのことが自分にとって必要なものが何であるかを悟ることであると思うからです。アーメン。



清々しい洗礼式

河野有希

藤澤さんの洗礼式を見て

2月18日は、藤澤さんの洗礼式の日でした。式の間印象的だった事は、藤澤さんが誓いの言葉を噛みしめるように丁寧に言っていた事、洗礼名を授かっていた事、セレモニーの日なのに柔和で穏やかな表情とシャージ姿でした。10年以上も大宮シオンルーテル教会に通っていらっしゃる方と聞き、その10年の間に様々な経緯があったであろうことを推測でき、信徒としての第一歩を心から祝したい気持ちになりました。

自分の洗礼を思い出す

私は、高校1年生の春、イースターの日に洗礼を受けました。神さまの存在を認識できたことが要因でした。私の時は、他の3人の方と一緒に受けたので、洗礼の余韻を味わう暇はありませんでしたが、聖水が頭に染み渡る感覚があり、何とも言えない身の引き締まる思いがあったことを思い出しました。

洗礼の意味再び

洗礼は、ヨルダン川でヨハネが人々に授け、「悔い改め」を求めたことが始まりと聖書に書かれています。イエス様もヨハネから洗礼を受け、聖霊が鳩のように降りたと書かれています。水の中に浸り、心身を清める行為は、日本の宗教の禊にも似ていると思いますが、自分の中の醜い思いや迷いを捨て、新しい自分になる儀式として、重要なものであることを再確認しました。

教会員になる決意

私が大宮シオンルーテル教会に通い出してから、約3年が過ぎました。田舎の福島教会へ通う事が困難な状態で、そろそろ大宮の教会員になろうとは思っていたのですが、タイミングがつかめなかった時、この洗礼式がきっかけとなりました。梁牧師や教会員の方達の人柄、雰囲気は感じており、ここの教会員になることには何の不安もありません。今は、私という存在をこれほど喜んで受け入れてくれる場所があったのか、という感動を覚えつつ、通っています。気持ちを新たにされ、新一年生の気分で頑張りたいと思っています。

【礼拝予定】

【主日礼拝】 毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

4 月 1 日(日) 枝の主日 聖 書：ゼカリヤ 9：9-10・フィリピ 2：6-11・ルカ 19：28-48 主 題：十字架に向かう主 讃美歌 79(教会)/386(教会)/81(I)(教会)
4 月 6 日(金) 聖金曜日礼拝 午後 7 時より 聖 書：イザヤ 52：13-53：12・ヘブライ 4：14-5：10・ヨハネ 19：17-30 主 題：十字架のそばに 讃美歌： 71(教会)/86(教会)/81 (教会)
4 月 8 日(日) 主の復活祭礼拝 聖 書：出エジプト 15：1-11・1 コリント 15：21-28・ルカ 24：1-12 主 題：空っぽのお墓 讃美歌：95(教会)/89(子ども)/496(教団)/91(子ども)
4 月 15 日(日) 復活後第 1 主日 聖 書：使徒 5：12-32・黙示録 1：4-18・ルカ 24：13-15 主 題：あの時燃えていたではないか 讃美歌：95(教会)/106(教会)/105(教会)
4 月 22 日(日) 復活後第 2 主日 聖 書：使徒 9：1-20・黙示録 5：11-14・ルカ 24：36-43 主 題：あなた方に平和があるように 讃美歌：100(教会)/107(教会)/88(教会)
4 月 29 日(日) 復活後第 3 主日 聖 書：使徒 13：26-39・黙示録 7：9-11・ヨハネ 10：22-30 主 題：あなたはわたしの子 讃美歌：342(教会)/410(教会)/415(教会)

(説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。)

【その他の集会】

- ・ 毎週水曜夜 7 時より礼拝を行っています。日曜日の日課と同じものであるため別枠での予定は乗せないことになりました。日曜日の礼拝に出られなかった方々のための礼拝ですので、どうぞどなたでもご参加ください。
- ・ 4 月より毎週金曜日 3 時より聖書勉強会を行ないます。女性の視点による学びを、特に英語学校や聖書に関心のある方々とともに行いたちと思っています。どうぞ、関心のある方はお越しください。
- ・ 4 月 1 5 日(日)、復活後第 1 主日礼拝後墓前での礼拝を行ないます。 昨年までは 1 1 月の全聖徒記念主日礼拝後に行なっていましたが、今年より変更になりました。
- ・ その他、随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など行なわれています。